



私立の魅力って、ナニ？

公立高校と私立高校。その違いは、国・地方自治体が運営しているのか、私企業（法人）が運営しているのか、ということNo.03でお伝えしました。ですが、違いはそれだけではありません。それぞれ独立した私企業（法人）であるからこそ、独自の方針で教育内容を組み立てることができるのが私立高校なんです。

今回は、そんな私立高校が持つ魅力について扱いたいと思います。

コースが豊富、資格取得も！

まず、公立高校にないようなコースが数多くある、という点が私立高校の魅力として挙げられます。それに加え、コースによっては将来活用することが可能な資格取得が可能です。

右の図1は神戸にある共学私立高校のパンフレットの表紙です。自分の興味や希望する将来の道に合わせて、受験するコースを選びます。この学校では、卒業までに簿記、ITパスポートや色彩検定などのコースに沿った資格を得られる他、卒業時に国家資格である調理師免許が取得できたり、製菓衛生師（国家資格）の受験資格が得られたりします。

また、2019年、2021年の「なりたい職業ランキング」で10位以内（中学生女子）にランクインしている看護師に関する学校も大阪府にあります。この学校は阪神間で唯一卒業時に准看護師の受験資格を得られます（図2）。この高等学校を卒業後、看護師養成課程を持つ2年制の学校に進めば、看護師の資格も取得できます。

進路ガイダンスや保護者対象進路説明会では2校を例として扱いましたが、他にも多くのコースを持ち、資格取得もできる学校はあるんです。

選べる8つのコース

調理師コース
製菓衛生師コース
保育・福祉コース
ファッションデザインコース
システム情報コース
ビジネスコース
スポーツコース
普通コース

図1

図2



准看護師試験合格率100%
（2019年度卒業生実績）

高い合格率の秘密は少人数ゆえ、生徒一人ひとりの成績に応じて放課後に講義や個別指導を行っています。また、外部講師による資格試験対策講義も徹底的に行い、全員が合格できるよう指導しています。また卒業後、准看護師として病院へ就職することもできますが、ほとんどの生徒は准看護師から看護師を目指すため、看護師養成2年課程の学校へ進学しています。

「私学はお金がかかる」…？

よくこんな言葉を耳にします。確かに、私立は公立に比べてお金がかかります。授業料だけをとってみても、公立高校は年間で11万8800円であるの比べ、私立は41万4059円（令和2年度兵庫県の平均）かかります。

ですが、高校生活でお金がかかるのは学校内だけのお話ではありません。2015年のデータですが、とある教育関係企業の調査では、高校生の通塾率は27.2%で、増加傾向にあります（公立私立問わず）。特に、大学進学に力を入れているような学校では通塾率が上がるという結果が出ています。

公立高校においても補習などで学力の底上げを図っていますが、大学進学に力を入れている私立高校では、**学校内で塾や予備校に通うのと同じようなサポートを得られることもあります。**

右表は伊丹市内の塾・予備校の費用を示した一例です。どの塾も年額30万円を超えていることがわかります。しかし、近隣の私立高校を例に挙げると、独自の講座を校内で開いており、1教科につき

	月額	年額
A	¥25,960	¥311,520
B	¥31,900	¥382,800
C	¥28,600	¥343,200

※週2回通塾として計算

年額15,000円で受講することが可能です（週1回）。また、学校によっては追加授業料なしに学力保障のための制度を利用することができます。

今後紹介する予定の就学支援金制度と組み合わせると、公立高校に通いながら通塾するよりも、私立高校の制度を利用しながら進学を目指す方が結果としてお金がかからないこともあるのです。

出口も安心！ 卒業後の進路

私立高校の特徴として、公立高校に比べて**大学進学に関して指定校推薦の枠が多い**という特徴があります。例えば本校の卒業生も多く通っている大阪の私立高校では、93 大学・32 短期大学の指定校推薦枠を持っており、総計 300 名以上が利用できる計算になります。学校によっては、いわゆる産近甲龍（京都産業大学・近畿大学・甲南大学・龍谷大学）や、関関同立（関西学院大学、関西大学、同志社大学、立命館大学）など有名私立大学への指定校推薦枠を持っている学校もあります。

それだけではありません。大学を併設している大学の場合、学校ごとに定められる基準をクリアできれば、**内部進学を行うことも可能です**。その場合、大学の入学金が免除・減免されるなどの優遇措置もあります。

就職でも企業との繋がりが深い点で有利です。神戸の私立商業科高校では、令和2年度卒業生の中で就職希望者の内定率はなんと100%！ 地元大手から内定が出ている人もいます。

※令和3年度のデータについては文科省・各学校共にデータがHP上で公表されていないため、令和2年度が最新情報となります。
(2022年6月27日現在)

公立も私立も魅力はいっぱい

以上、先日の進路説明会であまりお話しできなかった私立の魅力でした。公立学校も私立学校も、学校ごとに様々な魅力を持っています。実際に見に行つて、聞いてみて、自分に合った進路を考えていきましょう！